38

KL-6 が異常高値を示した事例

◎乾 瑞起[1)]、狩野 春艶[1)]、石井 里佳[1)]、山本 成登[1)]、佐藤 元哉[1)]、黒田 美穂[1)]、井垣 歩[1)]、小柴 賢洋[2)]
兵庫医科大学病院 臨床検査技術部[1)]、兵庫医科大学 臨床検査医学講座[2)]

【はじめに】シアル化糖鎖抗原 KL-6 は肺胞Ⅱ型上皮細胞に由来する物質であり、ムチン糖蛋白質の一種である。血清中で上昇した際にはさまざまな間質性肺炎の可能性が考えられるが、肺癌、乳癌、膵癌などの悪性腫瘍や肺結核でも高値となることがある。今回当院で、分析機器では捉えられないプロゾーンを示した KL-6 異常高値の事例を経験したので報告する。

【症例】60 歳代男性。左上葉肺癌で化学療法中。

【血液検査所見】AST 48 U/L、ALT 47 U/L、LD 1520 U/L、CRP 0.84 mg/dL、CEA 2464 ng/mL、CA19-9 222855 U/mL、KL-6 は初検値 621 U/mL、3 倍希釈値 6149 U/mL と、直線性が見られないにも関わらず、分析機器からのアラームはなかった。

【測定機器と試薬】機器は LABOSPECT008（日立ハイテクノロジーズ）、試薬はナノピア KL-6（積水メディカル株式会社）を用いた。

【検討内容と結果】

①KL-6 の希釈測定：患者検体の希釈系列を作成し測定した結果、最終 47500 U/mL で報告した。②プロゾーン検出条件の検討：既存のプロゾーン検出条件では、本検体の異常高値をプロゾーンとして検出できなかった。そこで、新たな検出条件を検討したが、本検体は他の高値検体と反応性が異なり、条件の設定には至らなかった。

【まとめ】今回我々は KL-6 異常高値の症例に遭遇したが、現行の分析機器、試薬では本検体のプロゾーンを分析機器から発生するアラームで検出することはできなかった。この事例以降、本患者の KL-6 測定は希釈系列を作成し結果を報告するようにしている。また他の患者においても同様の事象が想定されるため、LD、CEA、CA19-9 などの腫瘍マーカーの結果も参照し、プロゾーンの見逃しが起きないよう対策を講じる必要がある。

兵庫医科大学病院　臨床検査技術部　0798-45-6304